公益財団法人三康文化研究所 附属三康図書館所蔵　江戸時代のすごろく資料一覧

番号	請求記号	双六の種類	書名	記載著者名	出版事項	形態	注記
1	国16-297	盤双六	當流妙手雙陸錦嚢抄 (とうりゅうみょうしゅすごろくきんのうしょう)	大原芳蔵(菊雄)(生没年未詳)撰	[京] 吉田新兵衛 文化8年(1811)	1冊	盤双六の遊び方について書かれた本。この双六は二人で対戦する。上下それぞれを十二区画に仕切り、中央に分離帯を設けた盤上に黒白各15個の駒を、サイコロを振って出た目の数だけ進めることができる。
2	国16-298	道中双六	東海道五十三驛雙六 (とうかいどうごじゅうさんつぎすごろく)	歌川重宣(2代目)(1826-1869)画	[江戸] 丸屋久四郎 [安政4(1858)]	1舗	多色摺。「道中双六」。江戸日本橋が「ふり出し」で京都が「上り」となっている。東海道を旅する道中を絵双六にした。この双六は、サイコロの目数に合わせてマスを進む「廻り双六」。双六で遊びながら、気軽に旅の気分が味わうことができ、人気があった。
3	国16-301	道中双六	東海道五十三宿新板道中すご六 (とうかいどうごじゅうさんしゅくしんぱんどうちゅうすごろく)	[画家等不明]	江戸 上州屋重藏 [出版年月不明]	1舗	多色摺。「道中双六」。東海道を旅する道中を絵双六にしたもの。この双六は、「廻り双六」。
4	国16-302	道中双六	東海道五十三驛雙六道中記 (とうかいどうごじゅうさんつぎすごろくどうちゅうき)	[画家等不明]	[江戸] 有田屋 [出版年月不明]	1舗	多色摺。「道中双六」。東海道を旅する道中を絵双六にしたもの。この双六は、「廻り双六」。「名所名産道法畧記」と記載がある。なお、この双六を制作した版元有田屋は、「東海道五十三次」の浮世絵56枚を天保14年(1843)-弘化4年(1847)にかけて発行している。
5	国16-303	道中双六	新板游山道中きまま双六 (しんぱんゆさんどうちゅうきますごろく)	歌川廣重(1797-1858)画	江戸 蔦屋吉藏 [弘化(1845-1848)]	1舗	多色摺。「道中双六」。東海道を旅する道中を絵双六にしたもの。この双六は、「廻り双六」。画家歌川広重(1797-1858)は、天保4年(1833)から浮世絵「東海道五十三次」を発表し、その後も、種々の「東海道」シリーズを発表するとともに、各種の「江戸名所」シリーズ等も手掛けた。この双六は「廻り双六」。
6	国16-304	道中双六	東海道五拾三次新板道中雙六 (とうかいどうごじゅうさんつぎしんぱんどうちゅうすごろく)	歌川廣重(1797-1858)筆	江戸 山田屋庄兵衛 [出版年月不明]	1舗	多色摺。「道中双六」。東海道を旅する道中を絵双六にしたもの。この双六は、「廻り双六」。
7	国16-305	道中双六	新板加州金澤道中案内記 (しんぱんかしゅうかなざわどうちゅうあんないき)	歌川豐國(2代目)(生没年未詳)画	[版元不明] [出版年月不明]	1舗	多色摺。「道中双六」。加州とは加賀国のこと。江戸から中山道を行き、追分宿から北国街道に入り金沢(石川県)に行く道中を絵双六にしたもの。
8	国16-306	道中双六	東海道五十三驛名所旧跡行程記新鐫道中雙六 (とうかいどうごじゅうさんつぎめいしょきゅうせきこうていきしんせんどうちゅうすごろく)	一筆斧(一筆庵)英泉(溪齋英泉)(1791-1848)画	[江戸] 佐野屋喜兵衛 [弘化年間(1845-1848)]	1舗	多色摺。刷った後にしわを寄せ、縮緬に描いたようにした縮緬絵。「道中双六」。東海道を旅する道中を絵双六にしたもの。この双六は、「廻り双六」。
9	国16-309	道中双六	參宮上京道中一覽雙六 (さんぐうじょうきょうどうちゅういちらんすごろく)	一立齋廣重(歌川廣重)(1797-1858)画	[江戸] 蔦屋吉藏 [安政4(1858)]	1舗	多色摺。この双六は、日本橋から伊勢神宮に立ち寄り京都に向かう「道中双六」。右下が「ふりだし」の日本橋、右上が「上り」の京都で、真中には富士山が描かれた鳥瞰図で、マスを並べたつくりになっていない絵双六。袋付。
10	国16-321	道中双六	新板蝦夷土産道中壽五六 (しんぱんえぞみやげどうちゅうすごろく)	多気志楼主人(松浦武四郎)(1818-1888)絵	[版元不明] [出版年月不明]	1舗	多色摺。袋付。「道中双六」。実際に蝦夷地(現北海道)を探査した松浦武四郎(1818-1888)が作成した絵双六。蝦夷地各地の名産品や風俗等が紹介されている。この双六は「廻り双六」。
11	国16-307	名所双六	江戸名所賀喜分發句壽娯六 (えどめいしょかきわけほっくすごろく)	應雷豐國(歌川豐國(3代目))(1786-1865))筆 [豊川]國周(1835-1900)画	[江戸] 佐野屋富五郎 [文久3(1863)]	1舗	多色摺。「名所双六」。江戸の名所を描いたもの。この双六は「飛び双六」。
12	国16-318	名所双六	江戸名所一覽双六 (えどめいしょいちらんすごろく)	歌川廣重(2代目)(1826-1869)製図	[江戸] 蔦屋吉藏 [安政6(1860)]	1舗	多色摺。「名所双六」。日本橋を出発し、東は亀戸、小名木村辺、西は落合辺、南は品川辺、北は王子辺の御府内を巡り日本橋に戻る絵双六。この双六は「廻り双六」。
13	国16-320	名所双六	新版狂歌江戸花見雙六 (しんぱんきょうかえどはなみすごろく)	春農屋撰 岳亭(岳亭春信)(生没年未詳)画	江戸 大黒屋平吉 [出版年月不明]	1舗	多色摺。「名所双六」。日本橋を出発し、江戸中の花見の名所を廻り、日本橋に戻る絵双六。各名所には桜の種類と、名所の地名にちなんだ狂歌が書かれている。この双六は「廻り双六」。
14	国16-356	名所双六	新工夫拳双六 (しんくふうけんすごろく)	歌川國郷(生年未詳-1858)画	江戸 和泉屋市兵衛 安政4(1858)	1舗	多色摺。袋付・拳の札付。「名所双六」。江戸の名所絵を円内に描き、「狐拳」を取り入れた絵双六。「狐拳」とは、じゃんけんに似ており、狐、猟師、庄屋の三すくみ関係の拳遊び。猟師は狐に勝ち、狐は庄屋に勝ち、庄屋は猟師に勝つ。「此双六のしやうハ」で始まる説明文によると、6人で遊び、各人が狐、庄屋、猟師の札を持ち、左廻りと右廻りにわかれてコマを進め、途中で出会うと狐拳のルール通りに勝負が決まり、負けたほうが菓子を差し出す等して遊んだ。
15	国16-325	役者絵	大當外題壽語録 (おおあたりげだいすごろく)	一陽齋豐國(歌川豐國)(2代目)(生没年未詳)画	江戸 平野屋新藏 [文久1(1861)]	1舗	多色摺。「外題」は歌舞伎の演目のこと。歌舞伎の演目とその役を演じた役者が描かれている。この双六は「飛び双六」。
16	国16-326	役者絵	五十三驛看立雙六 (ごじゅうさんつぎみたてすごろく)	一陽齋豐國(歌川豐國)(2代目)(生没年未詳)画	京 笑壽屋庄七 [嘉永5(1852)]	1舗	多色摺。嘉永5年(1852)以降成立(出版)した『役者見立 東海道五十三駅』(一陽斎豊国(いちようさいとよくに)(三代目歌川豊国)(1786-1864)画 保永堂(ほうえいどう)出版)に描かれた絵をそのまま絵双六にした。東海道五十三次の地名にちなんだ歌舞伎に登場する人物を演じた役者の似顔絵が描かれている。この双六は「廻り双六」。
17	国16-365	役者絵	新板三ケ津役者道中雙六 (しんぱんさんがのつやくしゃどうちゅうすごろく)	三芝居士(花笠文京(1785-1860))著 不喜用不似助画	[出版地不明] 福井堂 [出版年月不明]	1舗	多色摺。東海道五十三次の各宿場に、上方と江戸の歌舞伎役者と、役の台詞を描いた絵双六。この双六が発行された時点では、この双六に描ききれなかった役者を『木曽道中六十九次』に描き、続編として出版する予定であったようだ。この双六は「廻り双六」。
18	国16-366	役者絵	誠忠義士四拾八人廻り雙六 (せいちゅうぎししじゅうはちにんまわりすごろく)	一鶯齋國周(豐原國周)(1835-1900)画	江戸 辻岡屋文助 [慶応1(1865)]	1舗	多色摺。元禄年間に、江戸城・松之大廊下で、吉良義央(上野介)(きらよしひさ／きらよしなか)(1641-1703)に斬りつけたとして、播磨赤穂藩藩主の浅野長矩(あさのながのり)(1667-1701)が切腹に処せられた。その後家臣の大石良雄(おおいしよしお)(内蔵助)(1659-1703)以下四十七人の赤穂浪士が主君の敵吉良を討った赤穂事件を脚色した『仮名手本忠臣蔵』に基づき、赤穂事件に関わった48人の人物を歌舞伎の役者に当てはめて描いた絵双六。この双六は「廻り双六」。
19	国16-347	教訓	新版娘庭訓出世雙六 (しんぱんむすめていきんしゅっせすごろく)	溪齋英泉(1791-1848)画	江戸 和泉屋市兵衛 [弘化(1845-1848)]	1舗	多色摺。「女庭訓」は江戸時代の女の教訓書。「ふり出し」に「人うまれてをさなきときハおやのそだてぶありといへとも」とあり、親の子育ての大切さを説いている。この双六は「飛び双六」。
20	国16-348	教訓	善惡道中出世壽古六 (ぜんあくどうちゅうしゅっせすごろく)	一勇齋國芳(歌川國芳)(1798-1861)画	江戸 和泉屋市兵衛 [安政2(1856)]	1舗	多色摺。道徳教訓を描いた絵双六。「ふり出し」で「善」と「悪」が相撲を取り、せめぎ合いをしている。この双六は「飛び双六」。
21	国16-349	教訓	教訓人間一生道中双六 (きょうくんにんげんいっしょうどうちゅうすごろく)	一曜齋國郷(歌川國郷)(生年未詳-1858)画	江戸 丸屋甚八 [安政3(1857)]	1舗	多色摺。道徳教訓を描いた絵双六。「踏出し」に「道二ツ善と悪とがある中に」と記載がある。この双六は「廻り双六」。
22	国16-336	出世双六	投算早喩萬民出世の意志圖繪 (なげざんはやたとえばんみんしゅっせのいしずえ)	黒川玉水(生没年未詳)画工	京 菊屋喜兵衛 大坂 河内屋清七 嘉永2(1849)	1舗	刷物。道徳教訓を描いた絵双六。投算(なげざん)とは、算木(さんぎ)や銭を投げて、その表裏により吉凶や方角を占うこと。各マスに算木が記されている。白抜きは「正の数」、黒は「負の数」(マイナス)を示すか。詳細は不明。
23	国16-371	出世双六	戯場樂屋出世双六 (しばいがくやしゅっせすごろく)	壽老山人著 國周(豐原國周)(1835-1900)画	江戸 山本平吉 [文久2(1862)]	1舗	多色摺。「出世双六」。歌舞伎役者の出世の夢を描いた絵双六。この双六は「飛び双六」。
24	国16-331	行事・風俗	新板春戯程芳双六 (しんぱんはるのたはむれほどよしすごろく)	朝櫻樓国芳(歌川国芳)(1798-1861)作 歌川芳綱(生没年未詳)画	江戸 高木屋幸助 [出版年月不明]	1舗	多色摺。「さかなや」、「ゆや」、「かみゆひどこ」、「おしろい」、「雪見」、「花見」等、庶民の日常生活や世相を描いた絵双六。この双六は「飛び双六」。
25	国16-354	行事・風俗	春遊吉辰雙六 (はるあそびきっしんすごろく)	[画家等不明]	江戸 丸屋清治郎 [安政3(1857)]	1舗	多色摺。「恵方参」、「七草」、「追儺(まめまき)」等、江戸時代の春(1月～3月)の行事や風俗を描いた絵双六。この双六は「飛び双六」。
26	国16-310	和歌・読み物	兒雷也豪傑雙六 (じらいやごうけつすごろく)	柳下亭種員(1807-1858)案 一雄齋國輝(歌川国輝)(生没年未詳)画	江戸 和泉屋市兵衛 [嘉永5(1852)]	1舗	多色摺。原作の『児雷也豪傑譚』は天保10年(1839)から明治元年(1868)まで刊行された合巻(5巻を1冊にして綴じた草双紙(娯楽本))。43編からなる長編。戯作者の美図垣笑顔(みずがきえがお)、一筆庵(浮世絵師の渓斎英泉)、柳下亭種員、柳水亭種清の順で書き継がれていった。挿絵は歌川国貞等ら7人の浮世絵師が担当している。和泉屋市兵衛から出版された。この絵双六は、「飛び双六」。3人目の作者である柳下亭種員が物語の場面を選び、制作されたものであろうか。
27	国16-311	和歌・読み物	水滸傳豪傑雙六 (すいこでんごうけつすごろく)	歌川國芳(1798-1861)画	[江戸] 西村屋與八[ほか] [天保年間(1830-1844)]	1舗	多色摺。中国明代の小説『水滸伝』の登場人物を描いた双六。この双六は「廻り双六」。
28	国16-322	和歌・読み物	新板百人一首むべ山雙六 (しんぱんひゃくにんいっしゅむべやますごろく)	歌川豐國(1769-1825)画 十返舎一九(1765-1831)校	江戸 大國屋平吉 [出版年月不明]	1舗	多色摺。小倉百人一首を題材にした絵双六。天智天皇を「振出し」に、小倉山荘の藤原定家を「上り」としている。100あるマスには歌人の絵が描かれ、また描かれた歌人の和歌も記されている。この双六は「廻り双六」。
29	国16-339	和歌・読み物	假名手本誠忠壽古六 (かなでほんせいちゅうすごろく)	一雄齋國輝(歌川國輝)(生没年未詳)画	江戸 和泉屋市兵衛 [嘉永(1848-1855)]	1舗	多色摺。元禄年間に、江戸城・松之大廊下で、吉良義央(上野介)(きらよしひさ／きらよしなか)(1641-1703)に斬りつけたとして、播磨赤穂藩藩主の浅野長矩(あさのながのり)(1667-1701)が切腹に処せられた。その後家臣の大石良雄(おおいしよしお)(内蔵助)(1659-1703)以下四十七人の赤穂浪士が主君の敵吉良を討った赤穂事件を脚色した『仮名手本忠臣蔵』に基づき、歌舞伎で演じられた様々な場面を描いた絵双六。この双六は「飛び双六」。
30	国16-329	和歌・読み物 道中双六	東海道五十三驛滑稽道中雙六 (とうかいどうごじゅさんつぎこっけいどうちゅうすごろく)	[一蕙齋芳幾(落合芳幾)(1833-1904)画]	[版元不明] [慶応1(1865)]	1舗	多色摺。「道中双六」。『東海道中膝栗毛』に基づいた絵双六。「ふり出し」には、『東海道中膝栗毛』の著者十返舎一九(1765-1831)、浮世絵師岳亭春信(生没年未詳)、同じく浮世絵師一蕙齋芳幾(1883-1904)が描かれている。この双六は「廻り双六」。
31	国16-370	尽くしもの	新板松盡長生壽古六 (しんぱんまつづくしながいきすごろく)	柳下亭種人(1807-1858)作 一惠齋芳幾(歌川芳幾)(落合芳幾)(1833-1904)画	江戸 辻岡屋文助 [安政5(1859)]	1舗	多色摺。袋付。「物見の松」、「犬をまつ」「ひらくをまつ」等「松」「まつ」がついた色々な言葉にちなんだ絵が描かれた絵双六。「尽しもの」と呼ばれる。この双六は「飛び双六」。
32	国16-300	歴史上の人物	本朝百勇傳英雄雙六 (ほんちょうひゃくゆうでんえいゆうすごろく)	式亭三馬(1776-1822)著 歌川國芳(朝櫻樓)(1798-1861)画	江戸 丸屋清次郎 [出版年月不明]	1舗	多色摺。平清盛、源頼朝、武田信玄、上杉謙信等20人の武将を描いた絵双六。この双六は「飛び双六」。
33	国16-335	相撲	三ケ津古今大相撲関取双六 (さんがのつここんおおずもうせきとりすごろく)	[画家等不明]	[版元不明] [出版年月不明]	1舗	多色摺。江戸時代の歴代大関32人が描かれた絵双六。江戸時代、相撲の最高位は大関。なお、この双六は「飛び双六」。
34	国16-330	浄土双六	無量壽國浄土雙六 (むりょうじゅこくじやうどすごろく) (新板双六集 内)	[画家等不明]	[版元不明] [出版年月不明]	1冊	後印。「浄土双六」は、『言国卿記』(ときくにきょうき)の文明八年(1474)八月八日に「一、宮御方ニテ、浄土シユコ六(浄土双六)アソハサル」と記述があり、文献で最初に確認された絵双六とされる。仏教の教えに基づいた内容が描かれている。この双六は「飛び双六」。